

だ い ず 通 信

令和7年 第2号

6月末時点で、は種が5月下旬のほ場で5葉期、6月上旬のほ場は3葉期です。

中耕・培土及び除草剤の散布で雑草を抑えましょう。

1 中耕・培土作業

中耕・培土は、土壌表面を耕すことで生育初期の雑草を土中に埋め込み、高い除草効果がある。

また、ほ場の表面排水を向上させ、湿害や病害の発生を軽減するほか、発根を促進し、耐倒伏性を向上させる効果がある。

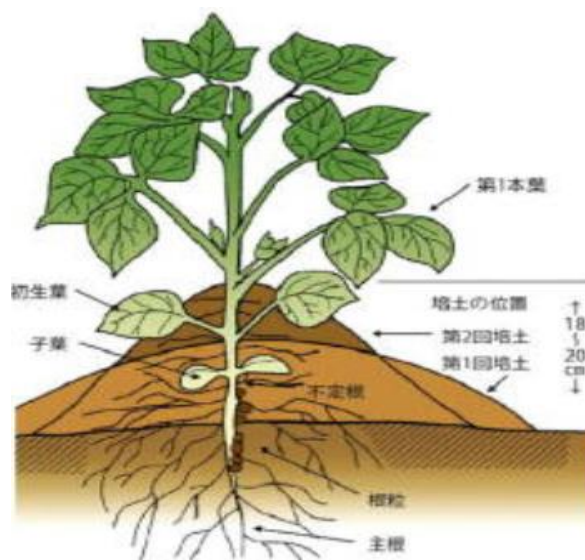


図1 中耕・培土の模式図

(1) 中耕・培土の目安

1回目：本葉2～3葉期（は種後30日頃）

子葉が隠れるまで軽く土寄せする。

2回目：本葉5～6葉期（1回目培土の2週間後）

初生葉が隠れるまで土寄せする。

(2) 作業のポイント

- ・やむを得ず、培土作業が1回しか行えない場合は、培土作業を除草剤散布におきかえ、確実に雑草を抑える。
- ・開花期以降の作業は、大豆の根を傷つけ、落花や土壌病害の発生を助長するため、開花が始まる7月25日頃までに作業を完了する。



本葉2～3葉期



本葉5～6葉期

2 除草剤の散布

- ・除草剤による雑草対策を行う場合は、雑草の生育初期に茎葉処理剤を散布する。
- ・大豆の生育が進み、茎葉で株間や条間を覆い始めると、雑草にかかる薬液量が減少するため、十分な除草剤の効果を得られなくなる。大豆5葉期では株間にかかる除草剤の液量は半分程度まで減少するため、散布は早めに行うこと。
- ・同じ薬剤の連用は特定雑草が残る原因になるため、定期的に使用薬剤を変更する。

(参考) 大豆生育期に使用できる除草剤(茎葉処理剤)

農薬名 (除草剤名)	適用雑草	使用時期	10a あたり 使用方法	使用方法	使用 回数
ポルトフロアブル	一年生イネ科 雑草(スズメノカタビラを除く)	雑草生育期(イネ科雑草 3～10 葉期)(収穫 30 日前まで)	200～300ml (50～100 ㍓)	雑草茎葉 散布又は 全面散布	2 回 以内
ナブ乳剤		雑草生育期(イネ科雑草 3～5 葉期)(収穫 30 日前まで)	150～200ml (50～150 ㍓)		1 回
		雑草生育期(イネ科雑草 6～8 葉期)(収穫 30 日前まで)	200ml (50～100 ㍓)		
		雑草生育期(イネ科雑草 9～10 葉期)(収穫 30 日前まで)	250～300ml (100～150 ㍓)		
大豆バサグラン液 剤(ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆の 2 葉期～開花前(雑草 の生育初期～6 葉期) (収穫 45 日前まで)	100～150ml (100 ㍓)		1 回
アタックショット 乳剤	一年生広葉 雑草	大豆の本葉 2 葉期～開花前 (雑草生育期)(収穫 45 日前まで)	30～50ml (100 ㍓)		1 回

熱中症予防運動展開中

～農作業中の熱中症対策のポイント～

- 高温時の作業は避けましょう
- こまめな休憩と水分・塩分補給を行いましょう
- 1人での作業はできるだけ避けましょう
- 熱中症対策グッズ(帽子・空調服等)を活用しましょう